

「渡水又渡水，看花又看花」

埼玉曹洞宗圓通庵觀音寺住持職 大場 満洋



季節が変わる三月お彼岸の頃は、穏やかで心地好い日が続く。お釈迦様が説かれた、中道の心で過ごしたい時節である。暑さ寒さも彼岸迄と言うが、今年ほど早い桜前線の到来はこれまで無かったように思う。

花が咲くのも笑顔になるのも日本語では、どちらも花咲ぶとか顔が笑ぶと読む。二度の台湾御本山への訪問の感想は、この「綻ぶ」の一語に尽きる。

その一、優曇華の咲くが如き「佛陀記念館落成式典への随喜は、震災支援への御礼

の思いを込めたお詣りでもあった。冬真の中の東京や台北とは一変して、雲一つ無い青空の中に輝く佛像の桁外れな巨大さに文字通り仰天した。真横で拝見した星雲大師の眼には、心無しが涙が滲んでいる様にも見えた。大師の感慨と盛大な式典や、壮大な施設を見おろす御佛は破顔微笑の印象であった。

今年拝見した普山式会場で見守る如来様も、台北や高雄道場の如来様方も皆々笑顔！日本の佛像との大きな違いは、その綻ぶ笑顔である。

その二、光輝に満ちた佛舍利奉納の日には、数万人の参列者！本年の訪台は震災三回忌に当る、春節の三月十一日であった、まるで盆と正月とクリスマスが、ディズニーランドの電飾パレードと青森のねぶたと花灯とが合体したかの如き華やかさ！只々感嘆、圧巻！旧暦正月の参詣者は百五十万人に及んだと伺い、更にまた驚愕、動顛！

法灯継承・拈華微笑の祝典に世界中から集った方も含めて、佛光山寺で出遇った皆様すべて法喜禅悦・歡喜の笑顔に溢れていた。「人間佛教」の花爛漫たる現状に圧倒されて、カルチャーショックの連続であった。まさに「感動是美」！

その三、法師様方の和顔愛語もまた、癒しと安楽の花満開の感動！星雲大師様のお言葉が、強く心に残る。

「十方世界に開かれた佛光山寺である事。人々を受け容れ導くのが、新命住職の使命である事。その為に就任宣誓をした要職の方々を始め、全員のチームワークが肝要である事」そのお諭しを体現する法師様方の、柔和で慈愛に満ちた笑顔もまた爛漫の花であった。

人間佛教の花が咲き和顔の綻ぶ様子は、まさに百花繚乱！二度の訪問の御縁が種子となり。やがて佛法交流の実を結ぶ事を願って一層精進したいと念じている。このたびの御招待を心から感謝しつつ、合掌低頭。